

●話題の製品探訪……*E. Schmid* Historical Hand Horn
 [エンゲルベルト・シュミット] ナチュラルホルン



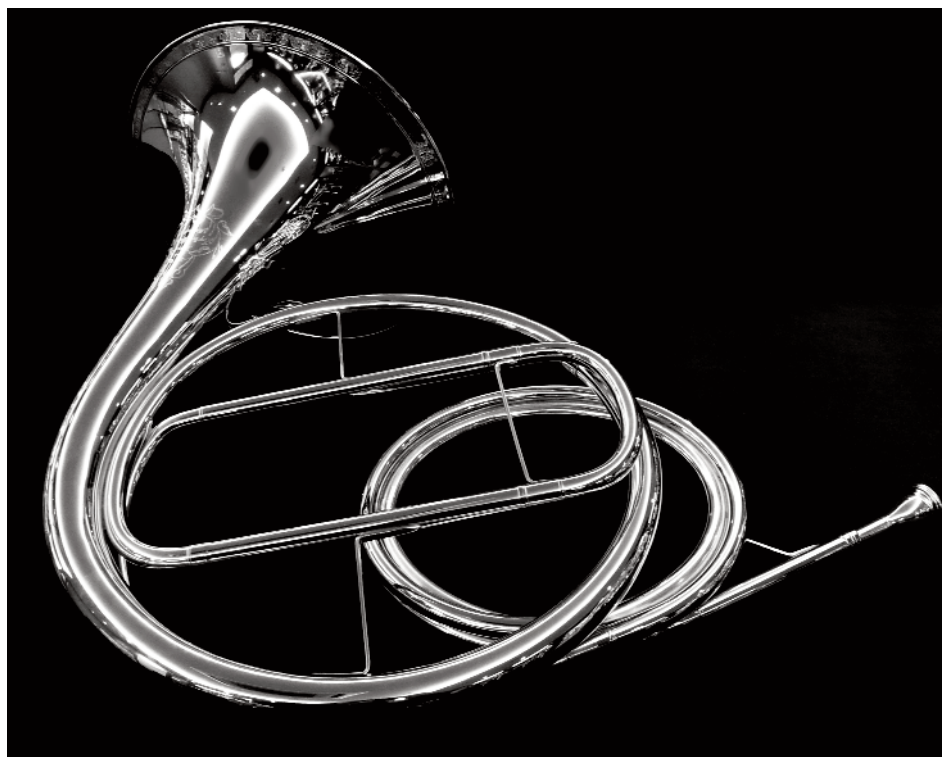
●モダン・ホルンの世界に音響学や最新のテクノロジーを積極的に導入して優れたホルンを作り続けるシュミット氏。

「これぞホルンの音！」とE・シュミット氏を感嘆させた名器ローレンツの美音を現代に復元！

高 校時代からノートにホルンの図面を描いていたというエンゲルベルト・シュミット氏は、本格的にホルン作りを志したときも、まず音響学の観点から既存のホルンを徹底的に調べ上げた。それにはもちろん歴史的なホルンも含まれる。

バルブ以前のホルンの命がその音にあるのであれば、その音を生み出す古の楽器のベルの解明がモダンのホルンづくりにも欠かせない。シュミット氏は、博物館に残る多くのパロックホルンやナチュラルホルンを調査し、そのレプリカを作って音響学的なデータを取りながら様々な実験を行っていた。

そんな中で、氏をとりわけ魅了した楽器があった。1830年頃にリントツで作られたイグナツ・ローレンツ (Ignaz Lorenz) である。口径28cm、ハンドハンマーが施された薄い管厚のベルから出て来るその音は、シュミット氏をして「これぞホルンの音だ！」と思わしめるものだった。



●Cアルト、Bb、A、G、F、E、Eb、D、Cバス、Kuppler 1Tonの各種クルークが付く。



奏曲の録音で聴けるようなオリジナルの気品ある玲瓏な響きをよく伝えている。さらに、シュミットが誇る現代の精密テクノロジーを駆使した楽器づくりにより、作りの精度の高さも見逃せない。クランツに彫られた華麗な彫刻の美しさや、各クルークのハンダの直づけなどに見られる丁寧な仕事ぶりにも、こうした楽器に対するシュミット氏の思い入れが感じられるだろう。

写真のようにクルークはCアルト、Bb、A、G、F、E、Eb、D、Cバスそれに「Kuppler 1 Ton」(全体を1全音下げる繋ぎ管)が付属する。Eb管のクルークを付けて全体の重量は約1kg。材質はイェローブラス。モダンピッチだが、抜差管を抜いてパロックピ

ッチにすることも出来、またシャンクはモダンホルンと同じなので、通常のマウスピースをそのまま付けて吹くことも出来る。

クリアなレスポンスと音程の良さ、何よりもその美しいサウンドを自慢するシュミット氏は、この楽器を「ハイドンからシューマンまでのウィーンの古典派音楽に最もふさわし

た。当時も名器の誉れが高かったこのローレンツのホルンは、その後さまざまな後継機を生み出すことになったが、シュミット氏が計測してみると、円筒管部分のボアの設計がどれも恐ろしくいい加減で

「似て非なるもの」だったという。そこで氏が、その美音を現代に魅了させるべく名器の復元に取り組んだのが、このナチュラルホルンである。音色はどちらかと言うと明るく華やかで、アップ・コスターのモーツァルトの協



●問い合わせ：ドルチェ楽器大阪本社06-6377-1117 東京本店03-5909-1771 名古屋店050-5807-3564

いホルン」としている。
税抜価格は140万円。